

宇部工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	日本史 B	
科目基礎情報							
科目番号	0003		科目区分		一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1		
開設学科	経営情報学科		対象学年		3		
開設期	前期		週時間数		2		
教科書/教材	詳説日本史改訂版（山川出版社） 図説日本史通覧（帝国書店）						
担当教員	岩元 修一						
到達目標							
①時代とともに変化する農業・商業などの人間活動が社会や自然環境に及ぼす影響を与えたかを説明できる。 ②世界の多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、説明できる。 ③日本を含む世界の多様な文化に関する理解をもとに、時間の変化の中で互いの文化の違いからどのようにして問題が生じるのか説明できる。 ④今日の国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安 (可)		未到達レベルの目安
評価項目1	人間活動の変化が社会や自然環境にどのような影響を与えたかについて、8割以上の基礎的知識をもとに論理的に説明できる。		人間活動の変化が社会や自然環境にどのような影響を与えたかについて、7割台の基礎的知識をもとに説明できる。		人間活動の変化が社会や自然環境にどのような影響を与えたかについて、6割台の基礎的知識をもとに説明できる。		人間活動の変化が社会や自然環境にどのような影響を与えたかについて、6割の基礎的知識をもとに説明できない。
評価項目2	世界の多様な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、8割以上の基礎的知識をもとに論理的に説明できる。		世界の多様な文化生活、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、7割台の基礎的知識をもとに説明できる。		世界の多様な文化生活、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、6割台の基礎的知識をもとに説明できる。		世界の多様な文化生活、民族・宗教などの文化的諸事象について理解し、6割の基礎的知識をもとに説明できない。
評価項目3	世界の多様な文化に関する理解をもとに、歴史の中で互いの文化の違いから問題が生じる背景について8割以上の基礎的知識をもとに論理的に説明できる。		世界の多様な文化に関する理解をもとに、歴史の中で互いの文化の違いから問題が生じる背景について7割台の基礎的知識をもとに説明できる。		世界の多様な文化に関する理解をもとに、歴史の中で互いの文化の違いから問題が生じる背景について6割台の基礎的知識をもとに論理的に説明できる。		世界の多様な文化に関する理解をもとに、歴史の中で互いの文化の違いから問題が生じる背景について6割の基礎的知識をもとに論理的に説明できない。
評価項目4	今日の国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について、8割以上の基礎的知識をもとに論理的に説明できる。		今日の国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について、7割台の基礎的知識をもとに説明できる。		今日の国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について、6割台の基礎的知識をもとに説明できる。		今日の国際的な政治・経済の仕組みや国家間の現状、その背景について、6割の基礎的知識をもとに説明できない。
学科の到達目標項目との関係							
教育目標（F）							
教育方法等							
概要	第2学期開講 歴史は過去を対象とします。過去は現在と異なりますから、いわば別世界ともいえます。現在と異なる別の世界（過去）と向き合うことで、現在とは異なる文化や考え方にも出会えるでしょう。歴史に学ぶことで、人間を理解する航海に出てみましょう。						
授業の進め方・方法	上記の教科書・教材を主に使い、配布する授業プリントに記した概要に即して授業を進めます。配布プリントは、当日の学習内容の概要を記したものです。授業のすべてを事前にまとめたものではありません。毎回、プリントを補足する内容を板書しながら説明を加え、時に班ごとに、あるいは個別に発表してもらい、教科書や資料を読んでもらいます。理解度を確認するために、授業中に小テストを実施することがあります。また、一定の内容についてレポートを提出してもらいます。中間試験は実施しません。再試も予定していません。						
注意点	①評価の4割は講義の学習内容を学期末試験で確認します。授業では教科書・副読本を使った説明をよく聞き、講義をしっかり理解し自分の言葉で内容を説明できるようになって下さい。②残りの評価のうち、2割はレポートです。必ず期限内までに提出して下さい。③2割は小テスト・課題で評価します。必ず期限内までに提出して下さい。④最後の2割は授業中、教員が口頭でいろいろ関連項目を質問して口頭で発表してもらったり、課題を班ごとに発表してもらうことがあります。発表内容で評価します。④なお、欠席状況は各自で担当教員に尋ね確認してください。⑤再試験は予定していませんので注意してください。⑥教科書・副教材は必ず持参して下さい（忘れたり借りたりは減点の対象になります）。あわせて授業態度も評価の対象とします。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	自由民権運動と松方財政			自由民権運動と松方財政について説明できる。	
		2週	憲法制定と朝鮮問題			明治憲法の制定と朝鮮問題について説明できる。	
		3週	日清戦争と中国分割			日清戦争と中国分割について説明できる。	
		4週	日露戦争と戦後の国際関係			日露戦争と戦後の国際関係について説明できる。	
		5週	日本の産業革命			日本の産業革命について説明できる。	
		6週	第一次世界大戦と日本の中国進出			第一次世界大戦と日本の中国進出について説明できる。	
		7週	ヴェルサイユ体制とワシントン体制			戦後のヴェルサイユ体制とワシントン体制について説明できる。	
		8週	中間まとめ			前半の内容を整理する。	
	2ndQ	9週	1920年代の経済と日本の外交			1920年代の経済と日本の外交について説明できる。	
		10週	昭和恐慌と満州事変			昭和恐慌と満州事変について説明できる。	
		11週	1930年代の経済の展開と日中戦争の始まり			1930年代の経済の展開と日中戦争の始まりについて説明できる。	
		12週	太平洋戦争までの道			日中戦争から太平洋戦争を始めるまでの推移について説明できる。	
		13週	降伏と占領			日本の降伏と初期の占領政策について説明できる。	

	14週	占領から独立へ			日本の独立とその背景について説明できる。			
	15週	学期末試験						
	16週	答案返却ほか						
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標								
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合								
	試験	小テスト・課題	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	40	20	20	20	0	0	100	
基礎的能力	40	20	20	20	0	0	100	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	